

景況実感調査(2020年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 18日稼働となり対前月比3日減。売上、数量ともに対前月比20%以上の落ち込みとなり、打つ手無しの現状となっている。コロナの長期化を見据えて仕入れ先では時短、週休3日を採用し始めた会社もあり、得意先も営業活動を実質休止しており、商売も巣ごもり状態を強いられている。建設関連はかろうじて動いてはいるものの、製造業は動きが通常の半分以下ではないか。4～6月が底になると思われるので、ここは我慢しかないと覚悟している。
- ② 5月は営業日が18日。その内5月1、7、8日はGW中なので通常よりも販売量が少ないので、総量が少ないのは止む無し。ただし、緊急事態宣言が解除になったとはいえ、活況になる様子はほとんど見られず、全く先が見えてきていない。
- ③ 5月はコロナウイルス感染防止による生産活動縮小により、急激な落ち込みとなった。今後、徐々に経済活動が再開されるが鉄鋼業の回復には時間が掛かるものと思われる。
- ④ 生産、販売ともに散々な結果だった。先々不透明感しかないが、ポツポツと増産(取り戻し)案件も出てきたので、取りこぼしなく活動していく。コロナもあり、思い通りに動けないがTEL、FAX等でアプローチしている。

中板

- ① 5月の稼働日は連休による減少に加え、休業日の追加もあり通常月の3割減となった。各数値はリーマンショック時も大幅に超え、この半世紀で最低となったのではないか。販売数量確保のため協力価格の見積りを提示しても他社からの対抗不可能な価格提示があり失注するケースが多い。このコロナ禍をきっかけに、商権の拡大と確立を企てる動きが顕著となった印象。
- ② 建築関連現場が止まり、階段メーカー他の在庫の山が高く全てが止まっている状況。

厚板

- ① 受注量の減少が続いておりいつ底を打つのが見えてこない。主要ユーザーが6月末まで帰休・減産体制を継続していることが受注減の理由である。当社も5月は4勤3休体制にて稼働したが、前記の受注状況を踏まえて6月も当該稼働体制を維持するとともに、一部3勤4休体制を導入している。ユーザーから稼働情報を前広に吸収すべく努力していく。素材販売も低位にて推移しており、価格面でも下押し圧力が強い。なかんずく自動車、機械産業を客先とする販売先からの引合いは弱い。公共事業関連の案件を持つ先からの引合いは相応にあり、販売先ごとの跛行性が顕在化しつつある。

一舟安開金岡

- ① 5月の売上は創業来の低水準となった。他の指標も然る可し。連休が多く通常月より営業日が少ない上に、コロナ対応で営業時間短縮、社外営業活動自粛では当然の結果。しかし、12月以降の6カ月スパン内で1日当たりの売上は回復した。以って福と成すべきや。

工工形鋼

- ① 5月の倉出しは大幅に減少。前年同月比もマイナス。連休明けから現場は再開されたが、現場納入が低調で落ち込んだ。6月も変化なく、足下の荷動きも悪いが焦らず市況維持に努める。
- ② 5月については連休による稼働日の減少も、思いのほか落ち込まなかった4月の反動により扱い数量は大幅に減少。もともとオリンピックを控えた時期にあり、需要が止まり始める時期であったと認識。ただ価格の下落が止まらず、量と収益の二重苦に陥っている状況。7月以降は原料高からメーカーは値上げの可能性が高くなっており、潮目が変わる時期が近付いていると思われる。

異形棒鋼

- ① 5月、6月はメーカー固く、相場横這い。動きは4月、5月、6月も30%悪い。されど6月は22日稼働があり、また少し戻りも感じる。よって、景況は横這い、3カ月後はやや好転とした。とにかく商いが小さくなった。仕入れを漸進的に止め、仕入れ、在庫を今夏まず適正にしたい。
- ② コロナ対策で荷動きは大幅に悪化した。とくに在庫販売が低調で、近年にない稼働率の悪さである。回復には時間が掛かると見られる。

平鋼

- ① 5月に入り荷動きが急激に落ちた。緊急事態宣言が明けた後も荷動きは戻っていない。もともとオリンピックの影響で減少すると想定していたが、それ以上の落ち込みとなった。スクラップ価格が上昇しているのも注視している。当面はこの状態で耐えていくしかない。
- ② 月を追うごとに悪化している。店売りも建築土木も大型案件の動きも無く、ユーザーの在庫意欲も低いまま。秋以降の話は耳にするが、我慢はまだまだ続きそう。

車量形鋼

- ① 5月は日当たりの出荷も減少してしまい、かなり苦しい月であったが、6月になっても回復の兆しはない状況だ。
- ② 低稼働が続いている状況。
- ③ 鋼製下地材の販売を再開した。

鋼管

- ① 連休と在宅などによる稼働日減少で、過去最低の出荷量となった。今後はなだらかながら回復してくることを期待するのみ。

構造用鋼

- ① 需要環境は自動車に加え建機メーカーも操業停止となり、荷動きは全般に落ち込んでいる。緊急事態宣言解除後も低調な状態で推移しており、本格的回復には至っていない。先行きも不透明な状況。価格は一部で案件対応の安値も散見されるが、市況全体の下落には繋がらず、弱含み横這いで推移。

磨棒鋼

- ① 自動車、建機向けの紐付き品は当面調整が継続する見込み。地方を中心に小ロットの物件は、量は減っているものの件数的には減少幅が少ない。半導体製造装置、医療機器関連は安定もしくは増加傾向。エンドユーザーの状況により需要はみだら模様。

鋼材全般

- ① 今後、市況はさらに悪化することが予想される。苦しい状況が続くと覚悟している。
- ② コロナの影響が大きい。

その他

<鉄スクラップ>

- ① コロナ禍の影響を受けてスクラップの発生量が激減。そのため国内メーカーの生産意欲は低いものの、コロナが落ち着き経済活動が回復してきた海外向けの輸出業者との間で集荷競争が激化している。無い物高の上げ相場。価格だけが一人歩きしている。

<金属表面処理加工>

- ① 5月は紐付き、物件物とも客先の操業調整もあり予定していた扱い量が10%減った。スポットも同様に15%減ったが、高付加価値案件が多く、平均単価上昇にて売上高は4月と同水準。自粛要請が解除された事により、勤務体制を6月から通常に戻す。